

JAPAN SPORT

COUNCIL

日本スポーツ振興センター

競技力向上事業

強化指定選手発掘事業

育成キャンプ 2023

< 報告書 >



一般社団法人日本 FID バスケットボール連盟

JAPAN
BASKETBALL

強化指定選手発掘事業 育成キャンプ 2023 報告

事業概要

1. 事業名 強化指定選手発掘事業 育成キャンプ 2023
2. 実施目的 次世代の日本代表選手を発掘するため、全国各ブロックから推薦を受けた選手が一堂にキャンプに参加し、強化とタイアップしながら実施する。
3. 実施期間 2023年7月15日（土）～2023年7月17日（月・祝）
4. 実施会場 清水ナショナルトレーニングセンター
静岡県静岡市清水区山切1487-1
5. 参加者一覧

役職	氏名	所属	都道府県
男子ヘッドコーチ	小川 直樹	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	神奈川県
男子コーチ	吉田 直樹	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	神奈川県
男子コーチ	工藤 義教	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	新潟県
男子コーチ	谷口 英謙	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	愛知県
男子コーチ	大川 達也	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	北海道
男子コーチ	小川 裕樹	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	神奈川県
女子強化責任者	原 美子	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	福島県
女子ヘッドコーチ	一松 倫子	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	神奈川県
女子コーチ	花輪 希美圭	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	山梨県
ブロック担当 (中国四国)	小坂 祐三	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	山口県
ブロック担当 (九州)	山元 晃一	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	鹿児島県
ブロック担当 (近畿)	木下 直哉	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	大阪府
チームオペレーション	大沼 弘法	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	東京都
チームオペレーション	吉田 朋代	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	神奈川県
チームオペレーション	関 圭子	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	神奈川県
チームオペレーション	氣田 陽介	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟	東京都

【男子参加選手】

氏名	年齢	ブロック	都道府県	所属
土井 優生	18	東海北信越	長野県	CHIKUMA NEW HOPES
上江洲 明隆	18	九州	沖縄県	沖縄県 FID バasketボール連盟
當間 侑楼	17	九州	沖縄県	沖縄県 FID バasketボール連盟
森田 楓翔	21	九州	長崎県	BLAZE SUN NAGASAKI
山本 哲平	16	近畿	大阪府	NANIWARS
久保 龍乙	17	近畿	奈良県	奈良県立高等養護学校
平野 滝斗	17	近畿	滋賀県	RATEL
中尾 蓮音	19	北海道東北	北海道	札特連
滝沢 悠太	17	北海道東北	北海道	札特連
種田 蓮	18	北海道東北	北海道	小樽高等支援学校
宮本 涼平	20	北海道東北	北海道	札特連
門脇 治喜*	24	中国四国	山口県	下関ブルーハリケーン
伊藤 輝*	19	東海北信越	愛知県	Green Whales
杉浦 康介*	18	東海北信越	愛知県	Green Whales

* 現強化指定選手

【女子選手】

氏名	年齢	ブロック	都道府県	所属
田中 優香	16	東海北信越	長野県	CHIKUMA NEW HOPES
加藤 紗矢	30	近畿	大阪府	SO 日本・大阪
塚本 今日香*	21	東海北信越	静岡県	静岡クラブ
田村 菜々*	26	九州	長崎県	佐世保 KREIS

* 現強化指定選手



【男子トレーニングメニュー】

DATE	TIME	Contents	備考
7/15	15:00	W-up	
	15:30	測定① (マルチステージ)	
	16:10	測定② (身長、体重、翼長、指高)	
	16:45	Down	
7/16	6:00	Shooting Drill	
	6:50	Down	
	9:00	W-up	
	9:20	Fundamental Drill	
	9:45	Shooting Drill	
	10:00	Scrimmage	
	11:50	Down	
	14:00	W-up	
	14:20	Fundamental Drill	
	14:50	Scrimmage	
	16:50	Down	
7/17	6:00	Shooting Drill	
	6:50	Down	
	9:00	W-up	
	9:20	Break Drill	
	9:40	Dribble Work (1 on 2)	
	10:05	Scrimmage	
	11:30	Down	

【女子トレーニングメニュー】

DATE	TIME	Contents	備考
7/15	15:00	ウォーミングアップ	
	15:30	測定① (マルチステージ)	
	16:10	測定② (身長、体重、翼長、指高)	
	16:45	ダウン	
7/16	6:00	マイカンドリル・2人組シューティング	10本中何本入ったかを記録
	9:00	ウォーミングアップ	
	9:20	ドリブルドリル	
	9:45	2対1ボールキープ	ドリブル・ピボット
	10:00	3人組レイアップ	1min×2set
	10:25	ボールミートからの1 on 1	
	10:50	3x3デモンストレーション	
	11:40	3人組シューティング	
	11:50	ダウン	
	14:00	ミーティング	
	14:10	ウォーミングアップ	
	14:15	ハーフ2メン	
	14:20	三角パス	
	14:30	3人組レイアップ	1min×1set
	14:40	ルーズボールからの1 on 1	
	14:50	2対2パス回し	ボックス
	15:05	3人組シューティング	
15:15	3x3		
16:20	シューティング		
16:45	ダウン		
19:30	ルールあり鬼ごっこ 測定 (腕立て伏せ・腹筋) トレーニング	腕立て伏せ・腹筋・スクワット・ランジ・ライントレーニング	
7/17	6:00	マイカンドリル・シューティング	
	9:00	ミーティング	
	9:30	3x3 動画視聴	
	9:55	3人組レイアップ	1min×2set
	10:10	3人組シューティング	
	10:25	逆サイドからのパスからドライブ 逆サイドからのパスからドライブ⇒キックアウト	
	10:30	3x3	
11:30	ダウン		



日本男子代表チーム
ヘッドコーチ 小川 直樹

【男子総括】

次世代の日本代表選手発掘を目的とし、全国6ブロックから推薦を受けた14名の選手が参加をし、育成キャンプを実施した。昨年度までは若手選手中心のB代表チームを編成していたが、ブロックから推薦を受けることにより、ブロック内の強化育成、意欲向上にも繋がることから、新たな方式で実施した次第である。複数の代表コーチが見守る中、A代表とは違い、ファンダメンタルが重視され、身体の使い方含めた動作確認等、きめ細かな内容で行った。

本年6月にフランス・ヴィシーで開催されたVirtus Global Games 2023に於いて各国のコーチと強化システムについて議論をしてきた。国の情勢によっても異なるが、やはりメダルを獲得できる国については若年層の強化育成の方法論は異なるが、実際には行われている。Global Gamesに派遣をした日本男子代表チームは平均年齢が20代前半としながらも、中長期的な戦略で考えるならば今後、10代の選手の強化育成は必須である。現に他国では10代の選手の活躍が目立ち始めている。

今回参加した選手はバスケットスキルが高く、順調に育成すれば代表レベルに追いつける選手が数名存在した。然し、ファンダメンタルスキルは低く、自分の身体をコントロールすることや、ビジョンの取り方等、対応出来る選手は少なかった。おそらく所属するチームでもそのようなポイントを抽出してトレーニングすることはあまり取り組んでいないと推測する。例を挙げれば、ジャンプストップひとつ取っても、バランスの悪い止まり方をするため、そのあとの動作がスムーズに出来ないことや、ボールマンしか見ることが出来ないため、ボールを保持した後の判断が遅く、一瞬のチャンスを逃すケースが多々見受けられた。そのあたりは現日本代表チームでも毎回短時間で同じことを反復しながら選手たちが習得している状況であり、時間をかけ意識を高く持ちながら取り組めば解決できる問題であると思われる。

合宿の様子は以下、コーチの報告を参照して頂きたいが、ここではメンタリティについて触れたいと思う。

全体ミーティングでは「日本代表チームとは・・・」から始まり、選手自身が所属しているクラブチームとは全く異なる考え方やルールが存在することを理解してもらう作業から始まった。我々日本代表チームは多くの企業、団体、個人スポンサー様のサポートを受けながら活動出来ている現実がある。その御恩を返すには結果が全てであり、結果を出すためにはそれなりのプロセスを経る必要がある。要は代表チームの一員として関わるものすべてが高いレベルで日々自助努力をせねばならないということである。代表チームでは「やってもらって当たり前」という考え方は存在しない。口を開けて待っていても誰も手を差し伸べてはくれず、競争原理を持ち込み、そこで残ったものしか代表チームの一員として国際大会には出場できないのである。非常に厳しい世界であるということも現実としてアドバイスをした。また、常に感謝の気持ちを持ち続けることを忘れてならないことも付け加えた。こうしてキャンプに参加できるのも保護者、関係者の皆さんのサポートがあって出来ることなので、当たり前ではなく、前途した内容と重複する部分である。

基本的にこのようなメンタリティがベースにあって、フィジカル、スキルを上乗せしていくのが現在の日本代表チームの考え方である。またVirtus（国際知的障がい者スポーツ連盟）の国際総合大会は日本パラリンピック委員会が派遣元になっており、日本選手団を編成するにあたり、選考基準の中に日本代表選手としての資質が明記されている。当たりのことであるが、この部分が疎かになってしまうと、いくらスキ

ルやフィジカルが良くても推薦することは出来ない。若い世代からこのような教育は必要であると感じており、日の丸を胸に国の代表として戦う威信がなければ海外のチームを相手に戦うことは出来ない。このような部分も育成時期にきちんと理解できるようにサポートをしていきたい。

最後に今事業も多くの方々のご支援、ご協力を賜り実施することが出来ました。チームを代表して心から感謝を申し上げます。

今回参加したメンバーの中から来年度代表チームに招集される選手が1人でも多く選出されることを願い、男子の総括と致します。



日本男子代表チーム
コーチ 吉田直樹

【所見】

6月に出場したフランスでの世界選手権では4位という順位で終わり、結果だけ見れば大健闘の順位ではあるが、ベスト4位上の壁は高く厚く試合内容を見ても様々な面でチームとしての底上げが最重要であると改めて感じさせられる機会にもなったと感じている。

現代表選手の強化も勿論必須ではあるが、次世代の日本代表を担う若い選手の発掘や強化も重要であり、本合宿はこの国際大会直後のタイミングでもあったことから、非常に意味のある位置付けであったと感じた。参加者は、北は北海道から南は沖縄まで14名の選手が集まり、年齢も若い選手が多く集まった。

『日本代表とは何か？』・・・A代表の合宿でも度々選手に対して問うことがある言葉でもある。

今回、合宿に参加したメンバーはそれぞれ異なった環境でバスケットのプレイをしていることもあり、『チームで行動する』、『協力し合う』、『コミュニケーションをとることが苦手』など団体競技において不可欠である要素についても偏りがあり、足りていない（経験をしていない）選手も多かったことも事実である。

2泊3日と短い期間ではあるが、清水ナショナルトレーニングセンターという恵まれた施設環境で今回参加した選手にとっては貴重な経験を積むことができたということは事実であり、バスケットボールをする以前の問題ではあるが、この合宿で受けた言葉や、実践したドリル、トレーニングを地元に戻っても同じ意識で取り組んでもらえれば『日本代表とは？』のマインドも各地区に広まっていき、それだけでもこの育成キャンプの意味というのは大きいものになってくのではないかと改めて感じる機会となった。年間計画の中で実施できる機会は限られるが、今後も継続して実施していく必要があると感じる。

今回の育成キャンプの参加メンバーの中には現強化選手も数名が各ブロックからの推薦という形で参加をしていたが、あくまで目的は次世代の選手育成や発掘であるという認識あり、現強化選手の参加について否定する訳ではないが、一定の条件等（強化選手の当落線上にいる選手をピックアップなど）を付けるなどして各ブロックからの推薦とは別枠で設けても良いのではと感じた。また、現日本代表チームへの補強が必要なポジション等も事前にコーチ陣で検討するなどをして各ブロックへのリクエストをしても良いのではと感じた。



日本男子代表チーム
コーチ 工藤 義教

【所見】

6月に開催された Virtus Global Games 2023では、日本は惜しくもメダルには届かなかった。出場した代表選手たちは、世界で戦う選手の高さ、フィジカルの強さ、メンタルの強さを肌で感じられる良い機会になったと思う。世界で勝つ日本チームを作っていくためには、現代表選手の強化はもちろんのこと、世界で戦える選手の育成を進めていくが重要であると考えます。新たに代表候補になる選手の発掘。それに伴い、代表チーム内の競争激化をしていくことで、世界で戦うための力を選手同士が競い合いながら、高められる環境を作っていきたい。

今年度も国体予選が全国各地で開催され、それぞれの地区から若く、才能のある選手が素晴らしい活躍を見せてくれた。地区の優勝チームとして国体に出る選手は、日本一を目指し、所属チームで練習を積み重ねている。また、地区優勝できず、涙を飲んだ選手も、次の大会に向けてひたむきに練習に取り組んでいる。彼らにはもっと上を目指し、目標を高く持って練習に取り組んでほしいと願っている。私は、選手同士の厳しい競争の中で、切磋琢磨することが彼らの力をさらに伸ばすことにつながると考える。今回の育成カテゴリーの合宿は、まさに優秀な選手が集まり、選手同士が競い合い、各自の目標を高めることを狙って行われた合宿になったと考えている。

今回の育成合宿は、北は北海道、南は沖縄まで、全国各地から男子14名（すでに代表候補に入っている選手3名を含む）、女子4名（すでに代表候補に入っている選手2名を含む）が集まった。初日は、出会ったばかりの仲間同士、どうコミュニケーションを取ったらいいか、戸惑っている場面も見られたが、一緒に身体測定や体カテストをする中で徐々に打ち解け、初日の夕食では、同じテーブルで談笑するような姿も見られた。二日目は、ボールを使った練習が始まり、選手は、代表入りをアピールしようと、気持ちの入ったプレイを随所に見せてくれた。

選手のプレイから感じたことは、ドリブル、パス、シュートなど、ボールを使ったプレイについてはほとんどの選手が一定のレベルに達しているものの、体力や身体の使い方、柔軟性にはそれぞれに課題があることが分かった。日本を代表して世界と戦う選手になるためには、改善が必要な部分である。現代表選手も代表チームトレーナーから日々課されているトレーニングに取り組んでいる。フィジカル、メンタル両方のコンディションを整えることが、プレイの質やパフォーマンスにつながるため、今後、代表候補に選ばれた選手は、改善に向けて取り組んでもらいたいと思う。

わずか3日間の育成合宿であったが、選手たちはわずかな時間でもプレイヤーとしても人としても成長した姿が見られた。所属チームに戻り、合宿で得たものを伝えてほしいと願う。今後、代表候補に選ばれるように、さらなる成長を期待している。





日本男子代表チーム
コーチ 谷口英謙

【所見】

コロナが5類になり久しぶりの育成カテゴリーの合宿となった。急な募集ではあったが、全国各地、北は北海道、南は沖縄と選手が集まった。ナショナル強化には不可決な合宿であり、今回の招集はとても意味のあるものになるだろう。今回のフランスで行われたグローバルゲームスでは、どの国も若い選手の活躍があり、我々にとっても新戦力の発掘という観点やチーム内競争の激化など、今後よい作用が期待される。

今回の招集は比較的若い年齢が集まった。身長の高い選手はいないものの、身体能力や基本的な技術能力の高い選手は多く、練習には熱が入った。

まず初めに、「代表とは」と講習を受け、身体測定やアジリティー検査等を行った。練習内容は基本技術である、ドリブル・パス・シュート・ランニングプレーなど確認し、ゲームを多く行った。基礎ドリルでは、見ることでできなかったハツラツさも、ゲームでは全開で発揮することができた。

食事や入浴など集団行動をともにするにつれ、徐々に緊張もほぐれていき、一人一人の個性を理解し始めると、コート上でも連係プレーが増え、最終日のゲームは発熱する展開となり、大いに盛り上がった。

今回の招集は若年層が多いこともあったか、「日本代表とは」という心構えが間違っている選手もいた。久しぶりの開催ということもあり、その「ジャパンプライド」的にことは、伝えきれていないことは大きな課題と言える。ナショナルの活動をより活発に行い、国内に育成の意識を持たせたい。そこから育成のレベル、代表の求めるプレーのレベルやプライドの基準など浸透させ、育成から代表と「チームジャパン」のレベルアップにつなげたい。

今回、選手に帯同し、練習に参加してくれたスタッフやバスケットボールに集中できる環境を提供してくれた清水ナショナルトレーニングセンターの皆様には感謝申し上げます。



日本男子代表チーム
コーチ 大川達也

【所見】

全国各地から多くの選手が集まった、今回の育成キャンプ。

身長の高い選手は少なかったものの、身体能力や技術の高い選手が多かった。一方で、不安や自信のなさから消極的なプレーをしたり、コミュニケーションがほとんどなかったりしたのは残念だった。

合宿のスタートは、「日本代表とは」という話から始まった。選手の中には、なぜこの合宿に参加しているのかという意識や心構えが間違っている（イメージが持てていない）選手もいた。現時点では、代表チームとの力の差はあるが、技術ではなく、代表活動への参加経験値などが大きいように感じる。代表選手と一緒に練習する機会ができたときが楽しみである。

今後の課題として、ナショナルチームの活動や取組みをより発信すること、ナショナルチームのプレーレベルや強度を各ブロックに浸透させていけるように努めていき、チームジャパンの底上げにつながるようにしていきたい。



日本男子代表チーム
コーチ 小川 裕 樹

【所見】

今回の育成キャンプでは北は北海道、南は沖縄から11名の育成選手と現強化指定選手3名の計14名が参加した。

初めて会うメンバーの中で初日はコミュニケーションが取れず戸惑っていたが徐々に打ち解けていき食事の時には談笑している場面も見られた。

初日は「日本代表チームとは…」という話から始まり、マルチ・ステージ(20m シャトルラン)や身体測定を行い終えた。年齢歴には若い選手が多いが、体力的能力は今後の可能性があるであろうという数値結果であった。夜には Virtus Global Games 2023 のポーランド戦とフランス戦を主に観戦し、実際に海外の選手との身長差やフィジカルの強さを目の当たりにした。視覚的に捉え、中には刺激になった選手やイメージしやすくなった選手もいて非常に有意義な時間だった。

一人ひとりのポテンシャルは高かったが、基礎が出来ておらず、基本的に身体の使い方が理解できていない選手が多かったという印象が強い。また、実戦形式のスクリメージで良いプレイし、周囲にアピールする選手が何人かいたが、口が重く、コミュニケーション不足がかなり目立った。2日目の練習終わりには疲労が溜まり、限界に近い選手が数名いた。

今後、代表入りをして世界を目指すのであれば、日々の生活習慣の見直しや、トレーニング、バスケットボールに真摯に取り組む姿勢を持つ必要があると感じる。今回多くのコーチからのアドバイスを忘れずに所属先でも頑張ってもらいたい。

育成選手の活躍が強化指定選手に良い刺激となるため、互いの相乗効果が期待できると感じている。

今回もバスケットボールに集中できる環境を提供していただける清水ナショナルセンターの皆様、またご支援、ご声援して下さる多くのスポンサー様に感謝申し上げます。



日本女子代表チーム
ヘッドコーチ 一松 倫子

【女子総括】

今回各ブロックから推薦があり、実際に参加することができた女子選手は2名であった。今事業の実施に向け、6月の Virtus Global Games に派遣できなかった代表チームの選手に呼びかけたところ2名の希望者があり、計4名での合宿となった。

主に、選手の発掘という目的で行われる合宿であるが、女子に関しては国際大会で3人制のバスケットボールが採用されていることから3人制の特性を踏まえた上での選手選考ということになる。

今回参加した2名の選手については、個人スキルや代表チームでの活動に対する気持ち、競技のルールの理解などの視点から見て、有望な選手であった。選手の合宿の動画を今回参加し出来なかった女子チームのスタッフと共有し、Virtus の登録条件の確認、ブロック委員や所属チームのスタッフから代表活動をする上での日常の環境をヒアリングするなどして、今後の方向を決定していきたい。

男子選手が14名の参加に対し、女子は2名の参加ということで、女子代表選手の発掘についての課題が顕著に表れた合宿となった。国内における大会が5人制で、代表の活動のみが3人制であること、高校卒業後の活動環境などの課題があると思われる。

国際大会のみが3人制という現状で、国内での3人制の普及をどのようにしていくか、また、女子チームに関わるスタッフと連携し、情報共有する機会をどのように構築していくかなどを考え、課題の解決に取り組んでいきたい。



日本女子代表チーム
コーチ 花輪 希美 圭

【所見】

今回の育成キャンプは初めて合宿に参加したのが2名、現代表メンバーから2名の計4名で行った。身体の使い方や基本的なドリブル、シュート、3人制競技の体験を行った。人数が少なかったこともあり、4名ともすぐに馴染み、程よい緊張感はあるつつも良い雰囲気練習に取り組むことができた。

現メンバーはもちろんだが、初参加の2名についても行う練習や3人制専門のボール、ルールにもすぐに対応することができていた。今回は3人制特有の動き等についてはほとんど触れず、フリーで行ったため5人制の3対3の動きになってしまっていたが、それぞれ得意なことをプレイの中で見せることもできていた。今後3人制の動きを勉強し、切り替えの速さに慣れてくるとさらに良くなると考えられる。

【課題】

1) 3人制のバスケットをより理解し、慣れること

今回は時間もなく、初めて3人制を経験するということが特有の考え方や動きにはほとんど触れなかったが、5人制の動きとは明らかに違うこともある。地元のチームで3人制の練習を行うことは難しいかもしれないが、動画もたくさんあるので3人制のバスケットの理解を深められると良い。そうすると無駄な動きもなくなり、得点ももっと楽に獲れたり、3人制のバスケットをより楽しんだりできるようになると考えられる。

2) 基礎基本、体力の向上

基礎基本や体力については3人制でも5人制でも大切なことであるが、3人制の方が休める時間が少なくキツイと話す選手は多い。グローバル大会で日本が優勝できたのは今回の大会メンバーの体力面が他国の選手たちより上回っており、試合後半になっても走り続けることができたことが要因の一つである。今回一人でもできる様々な練習やトレーニングを行ったため、それを地元に戻っても続けて基礎力を上げるとともに、コートに立っている間は全力で走りきれ体力も向上できると今後活躍できる選手になれる可能性が広がると考える。

終わりに、今回も合宿実施にあたって、清水ナショナルトレーニングセンターの皆様にも多大なるご協力、ご配慮をいただきました。外は猛暑で通常であれば運動もできないような状況の中、早朝から夜遅くまで快適な環境で練習ができましたことに、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



ブロック担当（近畿）
理事 木下直哉

【所見】

代表ヘッドコーチの小川さんが、1日目のミーティングで日本対ポーランド戦を観ながら代表選手に必要な心構えを伝えた。1つ目はフィールドゴールのシュート確率についてである。ゲームをイメージしながら、数字にこだわりを持ち、パーセンテージをあげる努力をすること。普通のシューティングをしても意味がない。2つ目は、各選手の身体についてである。体幹が弱い、フィジカルが足りないという話である。この2つのことを選手がどれだけ意識できるか、これは選手だけではなく指導者が同様にもっと意識を高くする必要があったと感じた。2日目の朝、シューティングからスタートした。1日目のミーティングの数字にこだわりを持ちパーセンテージをあげるためのシューティングである。選手から、明らかに1日目と違う気持ちがそこに存在していた。対面シュートでは、シュートをする直前で初めてゴールを見るのではなく、必ずゴールを視野に入れるという話をされていた。代表になるためには、シューティング一つとっても、意識を常に高く持つということが大切であるということが感じられた。

ただうまくなるために練習している選手と、代表選手になるということ目指して日々練習に取り組んでいる選手がいる。今回育成キャンプに参加したメンバーは、少なくともこの経験によって後者の考えを持ってバスケットに取り組んでいる人間が日本国内に存在するということを意識するであろうし、そうであってほしいを願う。

今後の課題として、ナショナルチームの活動や取組みをより発信すること、ナショナルチームのプレイレベルや強度を各ブロックに浸透させていけるように努めていき、チームジャパンの底上げにつながるようにしていきたい。



ブロック担当（中国四国）
理事 小坂祐三

【所見】

スクリメージの審判をして谷口コーチの手伝いをさせていただきながら、男子を中心に見た。今回のメンバーのうち、ガード陣はシュート力があり、今後に期待が持てる選手がいたように思う。ただ、世界に伍するためには、河村勇輝のようにスピードを磨いて欲しい。サイズのある選手（と言っても、サイズ自体も十分ではないが）は、物足りないように感じた。

【課題】

一番の課題は、やはり意欲の表出が少ない点であろう。ミーティングの度に指摘されていたが、「日の丸をつけたい」という思いが伝わってこない。というか、とにかくもっともっと元気があって欲しい。

門脇選手（中国四国ブロック）は、最年長者として、声を出して皆を引っ張ろうとしていたが、反応が芳しくなく、空回り感が否めなかった。そのような中、近畿ブロック推薦の山本選手は積極的に声を出して、好感がもてた。

沖縄の2名の選手は、これほど真摯に練習に取り組むというのは、恐らく初めての経験だったのだろう。よい刺激になったと思うが、感じたことを忘れずに成長につなげることを願う。

長身者プレイヤーの育成が課題であろう。ポストプレーのときの足元（トラベリング）がおぼつかないレベルの者もいた。日々のトレーニングを欠かさず行い、所属するチームでしっかりと経験を積んで欲しい。

門脇選手は、今回最年長であることを気にしていた。「年齢は単なる数字でしかない。せっかくもらったチャンスなので、日の丸目指してがんばって欲しい」と伝えた。



2023 年度 FID 日本男子・女子代表チーム

サポート企業・団体・サポーター様

株式会社デンソー様

株志会社アイズ・カンパニー様 株式会社 CIJ ネクスト様

株式会社笹森様 Gio Code 株式会社様

双葉産業株式会社様

株式会社 FIELD MANAGEMENT STRATEGY 様

株式会社誠行社様 株式会社三寶天壽企画様 わだ薬局様

ナトリ電設株式会社様 株式会社 EIGHTIST 様 XD 様

株式会社田辺電業社様

株式会社スクエアワン様 いよいよ株式会社様 横浜税理士法人様

株式会社ほけんの 110 番様 株式会社フォースタープラス様

株式会社ネバーランド様 フォーカス株式会社様

特定非営利活動法人まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.様

株式会社空をみあげて様 株式会社 CIS 様

まち食堂あづま様 ヒーローズスポーツコミュニティ株式会社様

採用と教育研究所様 アサヒ印刷株式会社様

藤井 純様 杉本 正毅様 土屋 広行様 中村 一雄様 野田 悟様

須藤 昭宏様 須藤 昂矢様 松尾 直哉様 中村 昭男様 岸 敏夫様

一本松ミニバスケットボールクラブ有志一同様 山口 麻衣様 関 得男様

多大なるご支援ご声援、連盟一同感謝申し上げます